令和4年度 中央区立泰明幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員:藤井千惠子、和地泰志、山本佐江子 ※敬称略

第三者評価委員:細谷 美明

評価時期 令和5年3月

1 重点目標の評価

重点目標1(豊かな情操を育てる教育の推進)について

評価各項目について保護者、教員共に高い評価であり、3年間に及ぶコロナ禍の状況にありながら限られた環境の下、園の努力を感じ取ることができる。保護者の声にもあるように、異年齢の子供同士の交流活動が成果を上げているように感じる。本園のような少ない人数の中で重点目標を達成するには他の園や小中学校との連携・交流は欠かすことのできない対策である。今後も併設の小学校をはじめ近隣の保育園や幼稚園との交流活動を体系的・計画的に進めていくことを期待する。

重点目標2(幼児期に合った興味関心の向けられる教育の推進)について

重点目標1同様、保護者からは高い評価をもらっているが、昨年度との比較から教員からはやや厳しい分析があった。主因は子供たちの保育活動に対する保護者への伝達が十分でなかったことなどが挙げられているが、タブレットを活用し各園児の様子を録画しそれを降園時に提示しながら伝えていくなど今後検討してはどうか。園外活動が復活できたこと、その効果が随所に現れたことは高く評価できる。何より活動そのものだけでなくその前後の指導を大切にしている姿勢は素晴らしい。子供の体験活動を「学び」に変えていくためには事前・事後指導という教師の教育的営みが不可欠であることを今後も丁寧に保護者に伝えていってもらいたい。

重点目標3(多様な運動感覚の養成)について

重点目標1・2に比べ、保護者の評価はやや低い。特に運動量の少なさと規範意識の不足を指摘している声が多い。教員評価でも取り上げているが、運動量の少なさは少人数ゆえの難しさもあるかと思うが、分析の中にあるように、少人数で可能な運動も数多くあることから今後の研修に期待したい。また、1で挙げたように他園や他校との交流活動の機会を利用する方法も検討の余地があるかと考える。規範意識の育成については全国の幼稚園における成功事例がいくつもあることから参考にされることをお勧めしたい。その際、発達課題の関係で4歳児と5歳児との指導の違いが多少あるので配慮をしてもらいたい。

2 今後の改善に向けた意見

幼稚園では小学校以上に保護者との連携が教育効果の大小を左右する。その点、今年度の自己評価を見る限り、本園はそのことを十分理解しその対策を検討しているため来年度の取組に期待したい。とりわけ「保護者の保育体験」は、保育全般に対し不安感を持つ保護者にとって知識を習得できるだけでなく、他の保護者との交流も図れ、よい意味でのコミュニティづくりが推進できるものと考える。小学生の子供も持つ先輩保護者の意見もうまく取り入れたり専門家にも参加してもらったりするなど本活動のさらなる工夫をしてもらいたい。

3 その他の意見

特になし。